



技術の特集 ～酪農の人材確保と定着は労働環境の整備から～

- 人材確保にGAPを活用
- GAPで「作業の見える化」を
- 生産現場の労働環境改善事例

アグリチャンネル

宗谷管内発

DATE:2019年10月23日
『宗谷農家チーズセミナー』

群馬県のチーズ工房でフレッシュチーズの製造に携わる片岡恵子氏を講師に、チーズづくりに取り組む農業者等37名が、モッツアレラチーズの製造技術を学びました。参加者を釘付けにしたのはクエン酸を用いた“時短”製法。今すぐ教わったことをやってみたいとの声が上がった研修会でした。



f宗谷発

DATE:2019年10月28日
『令和元年度fフォーラム』

テーマ「様々な視点からみる仔牛育成」
佐呂間町トップファームグループの井上茂幸氏から「肥育農家が求める理想の仔牛」の講演と、枝幸町赤坂牧場「哺育牛管理事例紹介」、酪農試験場天北支場「仔牛の増体調査」の報告が行われました。出席者から沢山の質問があり盛会となりました。



そらのグループ・組織 宗谷4Hクラブ連絡協議会

The Group of SOYA

「令和元年度 宗谷青年農業者会議」が開催！

令和元年12月3日に豊富町民センターで、宗谷青年農業者会議が開催されました。今年は、アグリメッセージ部門1題、プロジェクトは地域活動部門2課題、畜産経営部門1課題の発表がありました。

審査の結果、最優秀賞はアグリメッセージ部門は稚内4Hクラブの堀さん、プロジェクト活動部門の最優秀賞は豊富町4Hクラブ、優秀賞は枝幸町4Hクラブが受賞しました。受賞者は、令和2年1月28日から29日に札幌市で開催される北海道青年農業者会議において、宗谷の代表として発表を行う予定です。



酪農への熱い想いを発表する堀さん



3年間の取り組んだプロジェクトを発表する豊富4Hクラブ！

今号の表紙



「馬つなぎ結び・もやい結び・トラッカーズヒッチ 結べますか？」
猿払研修生の会 ロープワーク講習会

おしらせ

本紙を掲載する
宗谷農業改良普及センターホームページ
のQRコードについて

スマートフォン・タブレットからQRコードリーダーを立ち上げ、読み込ませると本紙掲載ページが開き、PDFファイルにてご覧になれます。



技術の特集

酪農の人材確保と定着は労働環境の整備から

■ 人材確保にGAPを活用

昨今は、どの業種でも人材が不足していて、酪農も同じ状況にあります。酪農で人材が定着しない要因として、作業が多岐にわたっている「具体的にどんな仕事をしているか」が分かりにくいことがあげられます。

酪農ヘルパーに従事する場合では、エサの給与順番や給与量など、また従業員が行う草地の管理では、耕起時期、施肥量、除草剤の使用方法など、農場により考え方が異なり、意味がわからず作業することがあります。

そうしたことで「働きにくい」と感じるのではないのでしょうか。作業を「見える化」し労働環境を整備することで、スムーズな作業が行えると考えられます。

この「見える化」手段のひとつにGAP（ギャップ）があります。

■ 酪農ヘルパーからも「作業の見える化」を求める声！■

普及センターでは、宗谷・留萌管内のヘルパーに、アンケート調査を実施しました。

- その結果、
- 乳牛個体情報(引継書)
 - 農場基礎情報(農場の作業マニュアル)

- ・搾乳作業内容
- ・農場ならびに牛舎の見取り図
- ・全体の作業内容と流れ
- ・緊急時の対応と連絡先
- ・農場の基本情報や注意事項

の内容を整備し、ヘルパーと農家で情報を共有することで、コミュニケーションが取りやすくなることが分かりました（図1）。

また経験の浅いヘルパーが特に欲しい情報であることも分かりました（図2）。

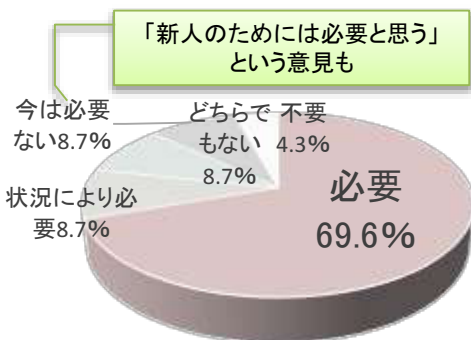


図1 「作業マニュアル」の必要性の回答（全回答）

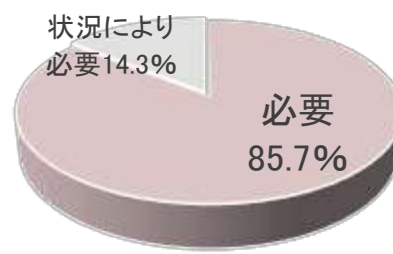


図2 「作業マニュアル」の必要性の回答（採用2年目までの酪農ヘルパー）

3 改善の実例

○ チェック表を使った改善手順の決定

- （1）農場での役割分担（責任者など）を決める
- （2）作業する手順をルール化する
「配合飼料は赤色のシヤベルで1杯」など
- （3）決めたルールを確実にできるように、「見える化」する
「ルールを書き留める」「記録を付ける」など
- （4）決めたルールを「やってみる」
- （5）「できているか」「見直すところがあるか」を確認する

「管理点と適合基準」を入手するには？

日本GAP協会のホームページにPDF形式にて入手できます。
http://jgap.jp/LB_01/index.html
 のアドレス、スマートフォンでは右のQRコードから検索下さい。



作業手順の見える化！誰でも分かる作業に！ 枝幸町 （有）エルムテールファーム

（有）エルムテールファームでは農業未経験者の従業員を雇用したり、酪農に興味のある学生の受入を積極的に行っております。

雇用や受入を行ったときに、お互いが安心して働けるよう作業手順やエサの給与量などの「見える化」を実施しています。

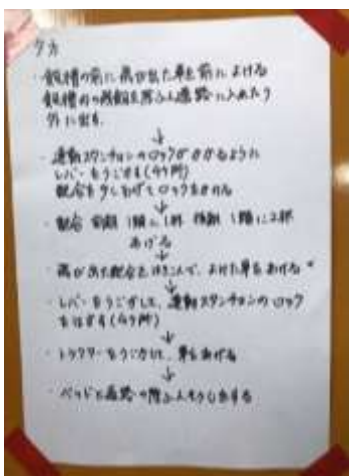


写真1 乾乳舎の作業手順

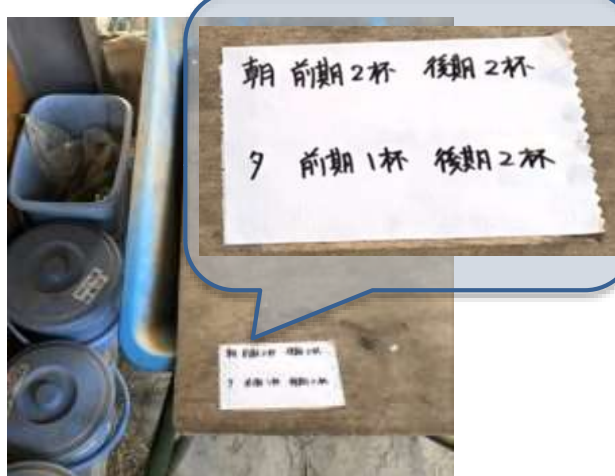


写真2 エサの蓋には給与量をそれぞれ表示

実際に働いている従業員や学生からは、
 「作業手順が記されているので、安心して作業できる！」
 「牛のステージごとに表示がされているので、スムーズに給餌ができる！」
 などの声が聞かれ、作業ミスの減少や時間短縮に繋がっているそうです。

2 「見える化」への方法と手順

○ 農場に合った改善ポイントの決定

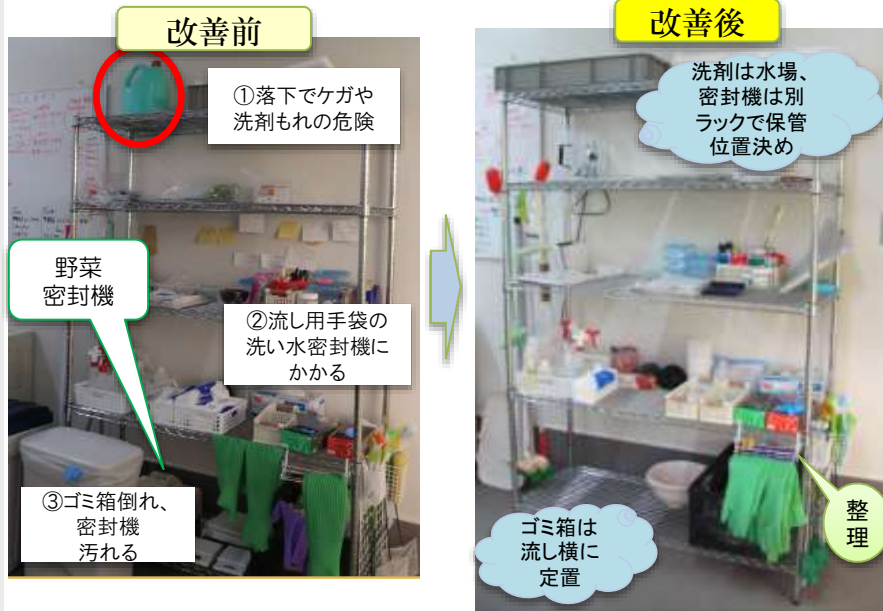
作業を「見える化」するためには、各農協で毎年実施しているポジティブリストの点検項目や、GAPで定める「管理点検と適合基準」を参考に、自己の農場に合わせた改善項目をピックアップし、チェック表を作成します。

G Good （良い）
A Agricultural （農業の）
P Practice （取り組み）

食品の安全のために用具棚を整理 就労支援B型事業所 稚内北光園

レタス類を栽培出荷し、平成31年3月にJGAPの認証を取得した稚内市北光園の改善取組の中から、用具棚の改善事例を紹介します。

改善前は写真①～③の、作業性や衛生安全面に問題がみられましたが、各用具の保管位置を決め整理しました。



作業責任者からは
 「何段目の右に〇〇の用具がある」の指示で、正確に取り出してもらえるので、作業が早くなっています！」
 との声がありました。

このように、作業を「見える化」し、労働環境を整備するには、GAPを取得しなくても、簡単に「すること」ができます。
 人材確保に向けて、あなたも「すること」から始めてみませんか？